

ファビオ・ボッタッツォ

ファビオ・ボッタッツォはジャズ・ギタリスト、コンポーザー、彼の音楽はポストビバップ、アコースティックとモダンジャズの上に位置する。

ボッタッツォのギタープレイからはジム・ホール、ジョー・パス、さまざまな影響が感じられるが、絶え間ない発展を常に続けていて、彼自身の個性あるフレージングを持っていることがわかる。

サイドマンとしてロック、アルターナティブ、ジャズアルバムを録音し、2007年には、繊細な演奏に定評のあるベーシスト東聡志と、彼のファースト・アルバム”Beginning Blues”を制作した。

イタリアと日本を中心に、バンドで、またソリストとして演奏し、仙台の「定禅寺ストリートジャズフェスティバル」、「新潟ジャズストリート」などにも参加している。

ブルーノ・マルコッツィ、アマンダ・ティッフィン、セバスティアン・カプテイン、森泰人など、多くのミュージシャンと共演。

ファビオ・ボッタッツォは、1971年、イタリアのパドヴァで生まれた。16歳の時ギターを手にして、すぐに80年代のロックに影響を受ける。

1993年から96年まで、イタロ・デ・アンジェリスにジャズギターとハーモニーを師事。この時期、様々なジャンルの音楽を学びながら、録音と演奏活動が続ける。

その後、1996年に、ウンブリア・ジャズで開かれたバークリー音楽院のサマースクールに通う。

2002年には、3年通った“ユニヴェルシタ・デッラ・ムージカ”でディプロマを取得。

その後、ファビオ・ゼッペテッラに師事。

パット・メセニー、ウォルフガング・ムースピール、スコット・ヘンダーソン、マイケル・マンリングなどのセミナーに参加。チャーリー・バナコスにも師事。

他の文化、特に日本の音楽に惹かれ、伝統的な曲に個性的ジャズアレンジを加え演奏している。2004年から日本に滞在。サイドマン、リーダーとして出演しながら、音への絶え間ない探求を続けている。

2010年には森泰人、セバスティアン・カプテインとともに自身のオリジナル曲が中心の「It's no Coincidence」を発表、このアルバムが「ジャズ批評」誌で「My Best Jazz Album 2010」の14位に、また収録曲「In un Giorno di Pioggia(ある雨の日に)」は「Best Jazz Melody 2010」の18位に選ばれた。

2014年7月に発表された、南アフリカ、オランダ、日本による国際的ジャズユニット a.s.k. のアルバム「Welcoming the Day」に参加。

Official site: www.fabiobottazzo.com